## 据野市立深良中学校だより 平成25年4月25日発行

第 4 号

発行人 校長 鈴木史良

4月25日を祝う

― 343年前のこの日に深良で何が起こったかを知る ―

直面する問題 — 今から347年以前の駿河の国深良村は、どんな村だったのでしょうか。今では水田が多く、当たり前のように稲作が行われていますが、この時代は水不足のために米も麦もろくに作れませんでした。作物といえば稗(ひえ)や栗(あわ)といった雑穀ばかり。わずかにとれる米は年貢として納めなければならず、村人たちの口には入りませんでした。日照りが続くと、すぐに畑の作物が枯れ始め、村人たちは苦しい生活に追い込まれたのです。

問題解決のための発想 ―― 日照りによる干害を克服し

ようと、多くの村人たちが知恵を出し合ったに違いありません。中にはあきらめて何もしないという考えの人もいたかもしれませんが、あきらめてしまうと現状は変えられません。みんなで何とか解決しようと、すぐ近くを流れる黄瀬川の水を使おうとしたこともあったでしょう。しかし、この川は水量が少ない上に、村よりも4メートル低い溶岩上を流れており、汲み上げることは困難だったと思われます。名案がないまま悩んでいる中で、誰かが常識では考えられないような発想をしました。芦ノ湖の水を、外輪山にトンネルを掘って深良に流そうという案です。まるで冗談から生まれたような驚くべき案ですが、村人たちはわらをもつかむ一心で、本気になって実現可能かどうかを検討したのだと思います。



深良用水の取水口付近

の許可が必要なのか? 藩、幕府、箱根神社の権限か。この工事のために費用をどれくらい用意しなければならないか? それだけの工事ができる技術者はいるのか? 駿東の村々を説得し、資金援助を受けるにはいつ誰がどうまとめていくのか? 用水を作ることによって駿東のどれくらいの村が救われるのかをどのように説明していくか? などなど乗り越えるべき課題は枚挙にいとまないと思いますが、この案を実現させるための戦略を誰かが必死に考えたに違いありません。その作戦なしには誰も見向きもしない夢物語で終わったでしょう。

共同体のコンセンサス — この土木工事を実現可能にするためには、多くの村人たちの賛同が必要だったことでしょう。村人たちの理解なしで莫大な費用を集めることもつぎ込むこともできません。この問題は深良村一村のことだけでなく、駿東の他の村々にも大きな影響を与えます。他の村々の賛同と支持を得、工事費拠出の合意を得るに至るまでには想像もつかない努力が必要だったに違いありません。それらの困難さを大庭源之丞ら先人たちは粘り強い取り組みによって一つ一つ乗り越えていったのです。そして、29か村もの村人たちの総意がまとまり、工事に向かって動き出しました。

**持続可能な社会の実現** — 工事請負人、友野与右衛門の献身的な努力により、足かけ5年の歳月をかけて箱根外輪山を貫く隧道(トンネル)が完成したのは、江戸時

代の寛文10年(1670年)2月。水門や用水路が整備されて、はじめて芦ノ湖の水が深良に届いたのが4月25日でした。この日を人々はどれだけ待ち望んでいたことでしょう。先人たちが後世に生きる私たちに、まさに<持続可能な社会>を残してくれた瞬間と言えます。祖先の偉業を明日につなぐ深中生の学びの姿がここにあります。



世界で活躍する日本の掘削機

石割ノミを使い、知恵と経験で1280 mの隧道を双方向から掘り抜き、その誤差が1 mだったという事実。私にはドバイ・メトロを完成させた日本企業の最新技術に近いと感じられました。企業の話では直径6 mの最新掘削機械が1 kmのトンネルを掘ると誤差が2 cmとのこと。350 年前の1 mは現代の2 cmに匹敵するすばらしさです。

## 5月の主要予定 前期生徒総会 PTA 理事会 19:00~ 5月 1日(水) 2日(木) 内科検診 憲法記念日 3日(金) みどりの日 4日(土) 5日(日) こどもの日 6日(月) 振替休日 8日(水) 3年修学旅行1日目 3年修学旅行2日目・1,2年校外教室1日目 9日(木) 10日(金) 3年修学旅行3日目・1,2年校外教室2日目 11日(土) 2年校外教室3日目・1年学年行事 13日(月) 振替休日 全校集会 生徒協議委員会 15日(水) 読み聞かせ① 給食なし・下校 短縮 17日(金) 18日(土) PTA 親子環境美化作業 8:30(予備 19 日) 22日(水) 生徒集会 26日(日) 市P連理事会·専門委員会 9:00 29日(水) 蒼葉祭体育の部総練習